（別紙５）

公表　**事業所における自己評価結果**

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス　LUMO芝浦校

公表日　2026年　2月18日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	道具の置き場所などを工夫している。	床のジョインマットを新しくしたい。 子どもの利用人数に対して児童指導員の人数が足りていない。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		○	全体が見れるよう各自散らばって配置している。	特別配慮が必要な子どもに対し、指導員が1人付いてしまうと他の子ども達に目が行き届かない場合がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	子どもが玄関から飛び出したり玄関の段差で落ちないように、指導員の待機する場所に気を付けながら、また、共有しながら連携を図ってい	運動する場にある流しの扉が子どもでも開けられてしまう。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動や子どもの姿に合わせて、道具の配置を変えるなど、状況に合わせて移動している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウンが必要な際に指導員も一緒に事務室で話しができる。	子どもだけで使えるスペースはない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		それぞれの理解が深まるように、度々確認をする時間を取っている。	引き続き空席や振替の案内などを行っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		1年に1回の保護者に対する自己評価シートの意見を元に、改善に向け取り組んでいる。	現在運動のフィードバックをLINEにて行っている為、送迎時により保護者とのコミュニケーションを取っていきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		その都度、職員間で意見を出し合い、業務効率や改善について話し合っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	回答なし。	第三者機関による評価を受けていない。 会社として第三者評価の実施予定はない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			現場で活かせる内容（保護者対応やセッション）の研修がもっと受けられたらいいと思っています。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ＨＰに公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		日々職員間で子どもの様子を話し合いを行い支援計画作成に繋げています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員全員が目を通すようにし、それぞれの視点から計画書を作成出来ている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	○		計画自体を職員全員が把握していることと、日々子どもの姿やかかわり方、支援方法などを話し合う機会を設けている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		運動や子どもの様子をまとめられるツールを用い、日々更新や確認を行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		○	回答なし。	提供すべき支援や家族支援、移行支援に関しては行えているが、地域連携はまだまだやり切れていなし部分もある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当の職員が基本考えているが、その都度内容の共有やもとになる支援内容などの共有はしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		それぞれが工夫してメニューを組み立てている。また、運動の内容やねらいなどデータ化し共有している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		基本的に集団での活動を行っているが、その中で個別の支援や指導も都度行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		運動の内容やねらいを共有し、活動時の配置なども決めたりしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	○		その日だけでなく、翌日の朝礼でも、支援の振り返りを共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		活動はその日のうちに記録に残している。また、その記録を振り返り日々の活動や話し合いの場で活用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に1回、児発から放デイに代わるタイミングなどで計画の見直しを全職員で行っている。	子どもたちの発達に合わせて不定期での見直しや改善を行っていくことも考慮している。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。		○	子どもの姿などから必要に応じて微細運動としての簡単な製作活動は行う事もあるが、基本運動療育なので、毎回組み込んではいない。	余暇は必要に応じで本部で対応してもらう。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		一人ずつにやりたい運動を聞く、難易度を選択させる、やりたい種目に取り組むなど、選択と決定の機会を作って取り組んでいる。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			サービス担当者会議を実施する機会が少ないが、関係機関とは支援について共有している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	必要に応じて子どもの様子などを情報共有している。	今後連携を図っていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		○		送迎サービスを実施していないので、学校との直接なやり取りする機会が少ない。保護者を介しての情報共有となっている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保護者から依頼された就学にあたっての書類制作など、共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	情報共有できる準備はある。	その年代の利用者がまだいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	○		研修会に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	回答なし。	今後連携を図っていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	回答なし。	今後参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		LINEにてその日のフィードバックや学校での様子などの情報共有を行っている。また、必要があれば半年ごとの面談以外にも保護者と話し	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	必要に応じて、動画を用いて、ご家庭でもできるワークをお伝えしている。	家族等が参加できるプログラムはないので、今後検討していきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時にお伝えしている。また、質問があればその都度対応している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリングや面談にてご家族の意向の確認を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	○		契約時にお伝えし、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		LINEでは、随時質問や悩みごとなどの対応をしており、必要に応じて子どもと保護者と分けて面談する場を設けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	回答なし。	行っていないため、検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		その都度職員で話し合い、対応を検討し、体制整備している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○	動画等で活動内容を保護者に伝えている。	ブログなどSNSを使って校舎の活動内容を知ってもらう機会を増やしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			鍵付きのロッカーに個人ファイルやPCなどを保管する。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもの特性に合わせ運動内容を理解しやすいように伝え、楽しく活動に参加ができるようにコミュニケーションを取っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	療育を主としている為、行事については未実施であるが、会社としては余暇活動を非定期で実施している。	今後連携を図っていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		定期的に研修を行っており、職員には周知を行っている。	避難訓練等各訓練は利用者周知のもと行えているが、各マニュアルは利用者に周知が行えているとは言い難い。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		ご利用者を含めた訓練を半年に一回、定期的に行っている。	防災グッズなどの備蓄が揃えられていない。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時や体験時にカウンセリングシートなどに記入していただいている。	定期的に書類の更新を行っていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	回答なし。	食事の提供は行っていないが、重度のアレルギーをもつ利用者がいた場合、利用時の持ち込みなどについて周知するかなど、検討が必要。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		契約時に確認をし、掲示を行っている。	安全管理を行っていることを利用者の中で理解の差異があるため、全体周知を促していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	○		契約時に確認し、了承を得ている。利用者の見える位置に避難経路等の掲示を行っている。	契約時のみの説明の為、把握しきれていない利用者も見られる。再度周知を行っていきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		発生した後は直ちに保護者に報告、全職員で共有、対策について検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		3ヶ月ごと定期的に行っている。	虐待の発達への影響、虐待の起こりやすい環境などより内容を深めた研修を行っていきたい。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時に確認、承諾を得ている。また、やむを得ずに行った場合は直ちに保護者への報告と職員間での共有を行っている。	身体拘束の必要がないよう子ども同士のコミュニケーションの援助などやむを得ない状況を減らしていきたい。